



部長のひと言



総務部長 梶田 正

風鈴、打ち水、夕涼み、浴衣、すいか・・・といえ、夏を連想させます。今年の梅雨明けは、昨年より半月ほど遅かったですが、今年も暑い夏がやってきました。

人は、暑い夏をやり過ごすため、気温の低い山へ出かけたり、冷たい水に入ったり、さらっとした浴衣や甚平を着たり、冷たいものを飲んで暑さをしのいできました。それ以外にも、風鈴や打ち水といった感情や雰囲気でも暑さをやり過ごしています。特に日本人は、昔から目に見えない風を「木枯らし」「春一番」「薫風」など、いろいろな名前呼び、季節を表してきました。そして、風に揺られる風鈴は、感覚的な涼しさを演出する伝統的な風物詩です。短冊がかすかな風に揺られてチリン・・・音色は素材によって異なりますが、電子音に追われる現代人に安らぎを与えてくれる音です。

気温が高くなると、身体は汗をかいて体温の調整を図ります。汗の蒸発に伴って皮膚から気化熱を奪い、体温を下げます。これは、皮膚に打ち水をしている状況です。発汗は、自分でコントロールすることはできず、脳からの指令によっておきる極めて重要な生命維持機能です。発汗機能が正常だと、暑い夏でも体を動かすことができます。しかし、この機能が正常に働かないと体温調整機能のバランスが崩れ「熱中症」になってしまいます。

身体の機能も使わないと錆びてしまいます。暑い夏は、良い汗を適度に流し、汗や尿で失った分の水分や塩分をきちんと補給し、適度な休憩を取って乗り切りたいものです。



熱中症予防をしましょう

災害レベルの暑さが続いた昨年に比べ、今年は比較的涼しくなると言われていますが、夏は汗をかきやすく、朝から温度・湿度が高く熱中症にかかりやすい時期です。屋内外を問わず、定期的に水分を取り、塩飴を舂める、休憩をとる等を心がけましょう。

また、屋外で作業をする方は、睡眠不足や、前日にアルコールを多量に摂取すると熱中症にかかりやすくなり、大変危険です。実際に、前日に遅くまでお酒を飲んでた作業員が、睡眠不足のまま出勤して、朝礼時にすでに重篤な熱中症で死亡した例もあります。

自分以外に、周りの人の顔色や行動にも気を付け、互いに積極的に声掛けをして予防・抑止に努めましょう。熱中症の疑いがある場合は、必ず日陰など涼しい場所で処置を行い、改善しない場合は救急車を呼ぶことも必要です。



社内安全パトロール

7月25日8:30からH31湯川第13号砂防堰堤工事で、女性社員を含めた安全パトロールが実施されました。

このパトロールは、女性目線で作業場や休憩所、現場事務所などを点検し、細かな改善点を見つけ、より安全な環境に近づける事が目的です。

この日の作業内容はコンクリート打設で、下請け業者3社8名の方が作業をしており、現場代理人の清水さんは安全に気を付けながら作業を進めていました。



※虫刺されに注意※

夏になると虫の活動が活発になります。最近日本に生息していなかったものが現れるなど、一口に「虫刺され」と言っても危険です。蜂、ムカデはもちろん、蜘蛛の中にも猛毒を持つものがあります。また、アブ、ブヨ、毛虫なども刺されると強い痛みを感じ、刺された後に痒みや発疹、腫れが出るものもいます。最近では、外来種のヒアリや、デング熱を媒介するヒトスジシマカがニュース等でも取り上げられています。

屋外での作業を行うときは、長袖の服を着る、虫よけスプレーを使用する、見かけたら近寄らないなどの対策を取りましょう。もし刺されてしまった場合、安易な素人判断は危険です。放置せず、なるべく医療機関を受診しましょう。



北陸電力常願寺水力センター交通安全講習会

7月18日、北陸電力の交通安全講習会が行われました。

様々な道路、車や自転車の通行量、時間帯や天候等を設定できるシミュレーターを使用して横断時の安全について学習しました。高齢者が道路を横断している時と同じ状況を再現するために、重りがついたベストと靴、視界を制限するゴーグルを着用し、モニターを見ながら横断するシミュレーションも体験できました。



8月行事予定

- 2日(金) 立山砂防慰霊祭
- 8日(木) インターンシップ
- 14日(水)~18日(日) 夏季休暇
- 23日(金) 会社全体会議



随時
社内安全パトロール



リレーコーナー



土木部 久保 伸一郎

『子育て奮闘記』

1歳2か月の娘が日に日に成長を遂げており、我が家は完全に彼女中心の生活となりました。妻も4月から職場復帰したので、ちょうど1歳になるタイミングで保育所へ通い始め、そこでたくさんのお話を学んでアー！ウー！と私たちにアピールするようになりました。言葉は話せなくても、こちらの話すタイミングや表情で大体何を言われているのか彼女なりに理解できているようです。48歳になろうというオッサンには、向上心を持つことがなかなか困難になりましたが、そんな娘と触れ合うことで「まだまだこれから頑張らんとあ〜」と思わずにはいられません。

私の父母も70代後半となり、抱っこもほんの数分で断念してしまいますが、ボケる暇はない！と、育児に参戦してくれています。

普段、職場では笑顔の少ない私ですが、娘の前では完全に骨抜きメロメロ状態です。



富山県出身の若い世代が大活躍！

令和になってすぐに、大相撲では朝乃山関が富山県出身力士として103年ぶりの幕内優勝、バスケットボールでは八村 塁選手が日本人初のNBAドラフト1巡目指名と全国的に大変な盛り上がりを見せました。両選手とも20代の若い選手で、明るい話題を提供する大スターとなり、これからはさらなる活躍が期待されます。

こうした次世代の方々の活躍が、あらゆる方面でも活力をもたらす、より良い環境を創り出す事にも繋がります。建設業界も、次世代を担う若い力を大切に、活気に満ちた明るいものにしていきたいですね！



(写真は北日本新聞より抜粋)

